

【低学年推奨】SNS教育プログラム レッスン2（ユニット1）学習指導案

- 1 単元名 情報の取扱いについて考える
- 2 ユニット名 「いやなしゃしん」
- 3 本時のねらい 他者の気持ちを考えて写真を取扱うことができる。
- 4 本時の展開

構成	学習活動	指導上の留意点
導入	○予備発問 発問：写真を撮ったことがある人？ ある / ない 発問：写真を撮られたことがある人？ ほとんどの児童が、あると回答する。	・児童が実生活の中で、写真を撮ったり撮られたりする場面について発問し、興味・関心を高める。 ・めあて「とられたらいやなしゃしんについて考えよう」「写真を撮るときは、どうしたらよいか考えよう」
展開	○写真を撮られたら嫌な気持ちになるものについて考える。 発問：あなたが、友だちからしゃしんをとられたら、「いやだな」と思うものはどれでしょうか。 ○5つの写真を撮られたと想像して、どのような気持ちになるか考える。 ○写真①～⑤を「いやだな」「ちょっといやだな」「いやじゃない」に分類して、ワークシートに記入する。 ○「いやだな」と思った理由を考えて、ワークシートに記入する。 例)・④は、へんなかおを見られると、笑われそうでいやだ。 ・⑤は、見られたくないものが置いてあったりして恥ずかしいから。 ○班で「いやだな」と思った理由を話し合う。	・5枚の写真を黒板等にし、イメージをつかみやすくする。 ・作業が進まない児童には、友だちを一人想像するように声かけする。 ・一人一人の考えを尊重しながら、意見を共有して話し合う。(班、学級)
まとめ	○本時のまとめと振り返りを行う。 嫌な気持ちになる写真を撮らない、勝手に写真を撮らない。 写真を撮るときは、相手の許可を得ることが必要。 ・学習用タブレットで写真を撮るとき、どう使ったらよいか考える。 例)・相手に許可をもらってから写真を撮る。 ・相手の気持ちを考えて写真を撮る。	・写真を撮るとき、正しい方法を伝える。 ・児童の実態に合わせて、補助発問で学びを広げる。

5 指導の手引き

構成	学習の流れ	教師の発問・指示
導入	写真を撮ったり、撮られたりする場面を想起し、本時の学習に対して興味・関心を持つ。	写真を撮ったことがある人？
		写真を撮られたことがある人？
		撮られた自分の写真を見て、嫌な気持ちになったことがある人？
	めあて「とられたらいやなしゃしんについて考えよう」を設定する。	今日は、撮られたら嫌な気持ちになる写真について考えましょう。
展開	発問について、自由に考える。	あなたが、友だちから写真を撮られたら「いやだな」と思うものはどれでしょうか（5枚の写真を黒板等に示す）。
	写真①～⑤を「いやだな」「ちょっといやだな」「いやじゃない」に分類して、ワークシートに記入する。	写真①～⑤のそれぞれを「いやだな」「ちょっといやだな」「いやじゃない」のどれに当てはまるか考えて、ワークシートに書いてください。
	「いやだな」と思った理由を考えて、ワークシートに記入する。	「いやだな」と思った理由を書きましょう。「いやだな」が1つも無かった人は、「ちょっといやだな」と思った理由を書きましょう。
	班で嫌だと思う理由を話し合う。	「いやだな」と思った理由を、班で発表して、話し合しましょう。
	学級で意見を共有する。	意見を発表してください。
	☆補助的な発問や活動（時間配分等に応じて） 児童の実態に合わせて、補助発問で学びを深める。	写真ではなく、見られることはどうでしょうか？写真を撮られることと比べて嫌な気持ちになりますか？見られるのと写真を撮られるのは、違うのでしょうか？
まとめ	ワークシートのまとめに、考えたこと、感じたことを書く。	この時間で考えたこと、感じたことをワークシートのまとめに書いてください。
	（発展）児童の実態に合わせて、補助発問で学びを広げる。	もし、「いやだな」と思う写真を、友だちがインターネットに載せたら、どう思いますか？何がいやなのでしょう？ 逆に、自分が友だちを撮った写真があったら、それはインターネットに載せてよいと思いますか？おもしろい写真なのですが、それでもダメなのでしょう？
	本時の学習を、これまで出された児童の言葉を生かしてまとめる。	嫌な気持ちになる写真を撮らない。勝手に写真を撮らない。写真を撮るときは相手の許可を得る必要がある。

6 実践するにあたって

(1) 概要

- インターネット上に発信された画像等は、悪意ある意図的な発信でなくても、大きなトラブルを引き起こし責任問題に発展することがある。本授業では児童の発達段階に合わせて、友だちから写真を撮影される5つの例を基に話し合うことによって、相手が嫌な気持ちになる写真を撮らないこと、人によって撮られて嫌な気持ちになる写真は異なることを学ぶ。また、発展的に画像をインターネットに公開することの危険性についても学ぶことができる。

(2) 指導の方向

- 自分の望んでいない写真を撮られたときの嫌な気持ちを共有し、自分がされたら嫌なことを他者にしないことを学ぶ。
- 5つの写真を基にした話し合いによって、撮られて嫌な気持ちになる写真は人によって異なることに気付かせ、他者の写真を勝手に撮ってはいけないことを学ぶ。
- 児童の発達段階に応じて、ICT機器で撮影した写真は保存・複製・公開される危険があることにも触れ、ルールやマナーを守って撮影することや画像を取扱うことを理解させたい。

(3) 工夫すると良い点

- 肖像権（無断で撮影されたり、それを公表されたりされないように主張できる権利）の一方的な教え込みにならないよう注意する。そのためにも、児童が自由な発想で話し合うことを重視する。
- 嫌な気持ちになる写真を撮られたときの対処方法として、学校の先生や保護者に相談することを伝える。
- 学級の実態に応じて、5つの写真を「いやだな」と感じる順に並べ、なぜその順にしたのかをグループ内で話し合う活動もできる。自分と同じ並びであっても、理由は異なることが予想される。
- 5つの写真について、学級の実態や時間配分等に応じて「きがえのとき」、「みずぎすがた」、「おこられているところ」、「なきがお」、「くしゃみのかお」を追加したり、入れ替えたりしてもよい。

(参考) 10 枚の写真



レッスン2-1

いやなしゃしん

ねん くみ ばん

なまえ

あなたが、^{とも}友だちからしゃしんをとられたら、「いやだな」と^{おも}思うものはどれでしょうか



①

じぶんの
ねがお

②

たべているときの
じぶん

③

じぶんの
うしろすがた

④

じぶんの
へんなかお

⑤

じぶんのへや

どのようなきもちになるか、①～⑤をかきましょう

← 「いやだな」	「ちょっといやだな」	「いやじゃない」 →



◆「いやだな」と^{おも}思ったりゆうをかきましょう

◆まとめ

◆ふりかえり
